

論文様式

[ふりがな]	てらかわ たかし
[氏名]	寺川 孝

受験番号	※
------	---

(※欄は記入しないでください)

課題 応募する所属が抱える主な経営課題と、その解決策について (字数 2,000 字程度)

建設局は、道路・橋梁・河川・下水道・公園といった多くの都市インフラを所管している。これらの施設は、市民の生活や大阪の経済活動を支える都市基盤であり、これら施設の機能を維持拡充していくことが、大阪市の都市力の向上につながるものとする。

また、コロナ禍のなかインバウンドが激減し、市民の生活様式も大きく変容しているなかで、経済活動は復調しつつもコロナ禍以前に比べると依然低調であり、回復はまだ途上といった状況である。

2025 年日本万国博覧会を契機として、持続可能な大阪の経済成長を果たし、豊かな大阪を実現するため、都市インフラの適正な管理と都市の魅力向上につなげるための整備や活用に積極的に取り組んでいく必要がある。

以上を踏まえ、建設局が取り組むべき経営課題を以下に述べる。

1. 大阪の持続可能な発展を支える都市基盤施設の適切かつ効率的な維持管理

大阪市は早くから都市として発展してきたことから、その多くの施設が高齢化してきている。都市基盤施設は、その名の通り、住む人、働く人、訪れる人が様々な行動をするうえで基盤となるものであり、都市の骨格を形成するものである。

現在建設局では、施設ごとに個別の施設管理計画を作成して計画的に維持管理を進めてきている。

そこで、都市としての基本的な機能を守り市民にとって安全で快適なまちを持続させるため、これまでの維持管理の取り組みを検証するとともに、ドローンや AI による映像分析など民間で開発の進む新たな技術の実装に向けて実証調査を進めるなど、より効率的な維持管理の在り方を構築する。

2. 地震や風水害に備えた強靱なまちの構築

南海トラフ地震や上町断層地震、近年激しさを増す大雨に対し、現在所管している施設の機能を拡充し、減災を図るとともに被災後の速やかな復旧、復興のための備えをしておくことが必要である。

河川護岸などの施設の耐震性の向上や災害時緊急交通路の無電柱化を着実に進めていくとともに、災害時に支援をお願いする自衛隊とも連携を密にし、災害時の情報提供の在り方や支援拠点となる公園における施設整備など、受援力の強化を行う。

また、浸水対策については、気候変動により将来の降雨量が増加すること考慮した対策を推進するよう国において方針が出されたことを受け、本市においても、すでに整備済みの雨水対策施設の機能を最大限活用した効率的な浸水対策の計画を策定し、事業化に向けて取り組む。

3. 都市インフラに新たな価値を加え活力と魅力にあふれるまちを創造

コロナ禍による行動変容に、屋外志向型の行動がある。公園や水辺の遊歩道、オープンテラスなどで過ごす生活スタイルが定着し、健康を意識したウォーキングやサイクリングなどを始める人が増えてき

ている。

建設局では、みちを車中心から人中心へ、ウォークアブルな空間へ再編する取り組みを、御堂筋や中之島、なんば駅前で進めるとともに、万博に向け淀川左岸サイクルロードなどの広域的な自転車走行環境整備を大阪府と連携して進め、市内においても、自転車の走行のための矢羽根整備を緊急的に進めるなど自転車走行環境整備を進めている。

引き続き、ウィズコロナにおける新たな生活様式に対応し、健康的で活力あるまちづくりに資する都市インフラの転換を進めていく。

具体的には、御堂筋で、万博までに長堀通より南のエリアの側道の歩行者空間化を図るとともに、北のエリアでは万博において、地元をはじめ関係先と連携して、側道の活用について社会実験などにより具現化し、整備の在り方を示していく。

幹線道路において、自転車道の整備を行うなど、広域自転車ネットワークと市内のネットワークを強化し、環境先進都市大阪にふさわしいみちの在り方についても提示していく。

また、公園においても、大規模公園において導入を進めてきた指定管理制度を活用した民間ノウハウの導入や、中規模公園において市民が自ら催し、参加するパークファン事業についても対象となる公園の特性を踏まえつつ、様々な提案を受け適用範囲を拡大していく。

さらに、今後、まちづくりが進められる新大阪周辺においても、関係機関と連携しまちづくりのシーンにふさわしいみちの在り方について検討していく。

これまで述べた施策を実施していくうえで、ICTの活用などDXの推進が重要と考える。これらに取り組む中で、Z世代と呼ばれる若手の職員の感性を取り入れる仕組みをさらに充実させていく。若手の職員としての経験や知識が不足している部分を、ベテランの職員が補い、局の職員が一丸となって課題の解決に向けて取り組む組織づくりに取り組む。

大阪・関西万博に向けて、建設局では臨海部の道路や下水道の整備、淀川左岸線2期事業、鶴見緑地公園や御堂筋のサテライト会場としての取り組みなど、多くの都市インフラの整備を担っており、大阪・関西万博成功のため関連事業を着実に進めていく。